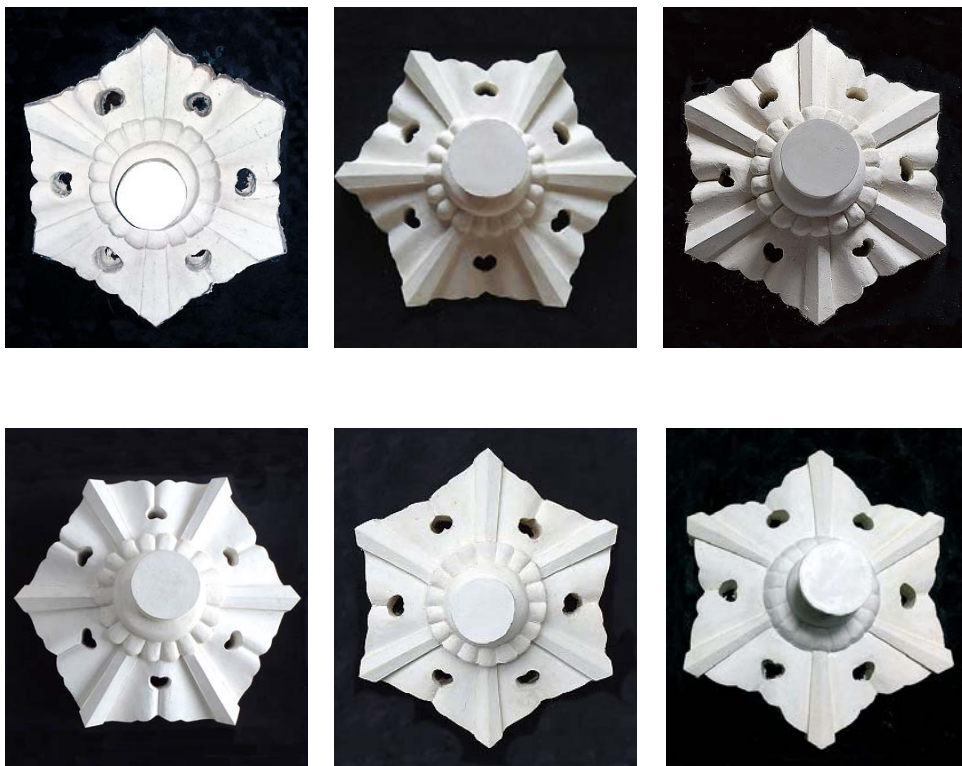


会報 全国文化財壁技術保存会 第 17 号

平成二十九（二〇一七）年三月二〇日発行
 編集 全国文化財壁技術保存会
 発行 愛知県江南市力長町 大当寺二八
 事務局
 TEL (〇五八七) 五九一八〇〇〇



中級研修生の課題(試験)作品

会長 佐藤治男



会報発刊にあたり一言述べさせていただきます。国の助成を受けて実施している若い技能者の研修においては、受講生の皆様の態度が非常に熱心で、今後も各地にて活躍してくれる事と期待しています。但し、左官仕事は各地方に依って仕事の内容が違います。このため各々の文化財建造物の特色を失わない様、我々の先輩が遺してくれた文化財の

壁保存工事には、夫々の土地に馴染んだ職人さんを育てることを考えなければならないと思っています。そこで全国各地から研修生を集め、文化財保存工事に携わる左官技能士を養成せねばならないと考えています。

職人が使う道具も時代と共に様変わりしてきています。私たちが使う伝統的な左官鋺を打つ鋺鍛冶師は、私の知る限りでは兵庫県三木市に二人、北陸関東地方に若干名おられる様です。三木市の二人は、ご子息に跡を継がす為、転職させてまで鋺鍛冶の道を仕込んでおられます。左官の使う仕上げ鋺は、三木市で作られているステンレス製の貼合せ鋺等が数多く関東地方や九州地方はじめ全国各地に発送され使用されているようですが、以前からの鍛造鋺を製作しておられる二人の鋺鍛冶さんに協力してあげたいと思います。

次に壁土をはじめスサや各種補強材の入手困難な現状が起きている。今すぐに手を打たなければ文化財は守れないと思います。私の住む文化財の宝庫京都において、保存工事に必要な壁土の採取が出来なくなるかもしれない。その他市内で種々の制約があり、文化財保存工事に携わる我々は本物の文化財保存工事ができませんので、後世に禍根を残すことになるのではないかと憂う次第です。幸い京都府文化財保護課の方で、庁舎の建て替えに伴う土木工事で排出する良質の粘土を保存工事に用いることができる様配慮して頂いております。これが実現すれば、文化財保存工事の将来に明るい兆しだろうと思っております。是非実現する様念じる次第です。

副会長 安達保信



平成28年度の当会の運営も事業計画通り、関係行政及び御指導の先生方や会員の皆様の御支援、御協力のお陰で活発に推移致しました事は、喜ばしく思います。本年度は中級試験が実技になり、参加者の真剣な作業で全員よい出来で合格致しました。ご苦労さまでした。作業課題の六葉漆喰は文化財の屋根上で輝くものであり、又将来、指導技能者として全国で先導して欲しいと期待している所です。

さて、文化財修理に欠かせない材料の枯渇が最近特に深刻度を増した様で、自然素材の土が筆頭であり、産出業者を支援す

ることが急務です。他方、修理者側の我々が携わる社寺建造物の背景にある他々の伝統行事や日々の行事、祭典等又参拝者への配慮等、施工者の都合優先でなく、担当者と充分協議し工事を進行しなければならないと、最近とみに感じます。世間の風潮で文化財の活用が重視され、一般公開という良い結果にありますが、我々施工者側も備える必要があります。今後共、よろしくお願い申し上げます。

第24期(平成28年度)総会

平成28年5月8日、京都市で第24期定期総会を開催しました。来賓には、京都府教育庁指導部文化財保護課 建造物担当課長の鶴岡典慶様、保存会顧問 公益財団法人全国国宝重要文化財所有者連盟常務理事事務局長 後藤佐雅夫様、保存会顧問 上

田耕三様にご出席を頂きました。総会では、平成27年度事業報告及び収支報告、28年度事業計画及び収支予算案、役員改選、会則変更の審議を行い、原案のとおり承認されました。

左官(日本壁)伝承者養成技術研修会(中級・実技)

文化財保存現場の長を育てることを目的として創設している「伝承者養成技術研修会(中級研修)」を、平成28年6月25日から27日の3日間、研修生6名により行いました。

全国国宝重要文化財所有者連盟常務理事事務局長 後藤佐雅夫先生による講義を受けた後、実技試験を行いました。

研修生の感想

◆今成 辰夫

座学は文化財の保存、修復方

法などを学びました。特に後期の実技は、六葉を漆喰で塗り籠める課題でした。普段の作業の中で壁に漆喰を塗る事はありませんが、この様な細かい役物を塗り、見本の様に形を整え、角をだし曲面を作る事は体験した事がなく、六葉自体、思いの外小さく、本当に大変でした。今回初めてこの作業を行い、次はああしよう、こうしようと思いますが、本来は実技研修の前にそのような想像をし、工夫が出来れば良かったと思います。中には型などを作り、工夫している人もいましたが、その様な工夫や想像は普段の作業においても、常に意識し行う事が出来れば良いと思います。中級研修を終えて、自分の思っている以上に形にならなかったり、うまく行かない事が体験出来た事が、これからの自分にとって、とても良かったと思います。

(吉村興業株)

◆ 太田 勝之

今回の中級研修では、漆喰蛇腹と六葉塗りを初めて体験しました。材料に対する幅広い知識と、道具において鋳以外のものも使用するというような柔軟な発想が必要だと、改めて認識しました。材料の特徴を十分理解出来ないまま作業を進めたため、厚みと水引きのバランスが最後まで調整できませんでした。どの部分も難易度が高く、その中でも、六葉の猪の目を揃えることは特に難しかったです。同じ課題でも参加者ごとの地域による特色があり、材料や道具、作業工程など、それぞれ個人の違いも表れ、良い刺激を受け参考になりました。また研修会全体を通して、時間に対する意識が甘いことに気づかされました。この点は、日常の生活から正すよう心掛けようと思います。全

てを含めて、今回の経験を今後の仕事に活かせるよう努力して参ります。

(太田左官)

◆ 木谷 直充

作業内容はとても難しく、細かい作業の連続でかなり苦しかったです。研修の作業は中級の為、講師の方からはこうしろ、ああしろ、という指示はあまりなく、自分達で考え作業するという事でした。上塗前日、下こすりの時どこまでつけ送るのか、穴があいている所はどうするのか色々考えながらの作業、そして上塗り時にはどんな物があるか、どうゆう定木があるか、どこから塗り始めるかなど、考える事がいっぱい大変でした。でも、こうした自分で考え作業するという当たり前の事がどれだけ大切で、前準備が大切だということとを再認識させて頂きました。また、お昼には他の研修生の

方々はどうゆうふうになっているか、どこがむずかしいなどの話をしたり作品を見せて頂いたり、これから色々役立ちそうな作業の進め方やおさめ方を聞くことができ、良かったです。この度の研修もかなり自分にプラスになり、また再認識させてもらった楽しい研修になり、他の研修生達とも仲良くさせて頂きました、楽しく作業ができて感謝しております。初日の講義は、初級でもお世話になった後藤先生でした。今回の講義でも大変貴重な資料を頂き、有り難うございました。自分のスキルアップに使わせて頂きたいと思います。

(株)つくい浅原

◆ 笹原 剛

この研修に関する資料を渡された時に、ただなんとなく、「会場に行けばすべて用意されていて、教えてくれる先生がい

「るのだろう」と思い込み、何の下準備もせずに参加してしまいました。そこが今回の最大の反省点です。言われてみれば確かに型を用意する所、塗る手順を考える所が職人として学ぶべき所であり、用意されたものを使い、言われた通りにやる研修などに意味があるはずもないのです。というわけで、課題の製作過程も、本来、使うべき型や測定道具等を用意してこなかった為に、見本を見ながらフリーハンドで塗る手順になってしまい、寸法はでたらめ、見た目もいまいちなものになってしまいました。自分としましても、不本意な結果です。最終日に型を使う方法、流れを教わりましたが、成程と思う所も多く、勉強させて頂きました。

(株)あじま左官工芸

◆ 清水達朗

六葉の漆喰塗りについて、元の型がモルタルと石膏を混ぜた型だったので、思ったより砂漆喰の水引きがちようど良く、荒付けが楽に施行できました。私は見本をできるだけよく観察して、どの箇所をどれだけ盛れば上塗がやりやすいかを考えながら、下塗の真練の漆喰に石灰と砂を入れ、荒付けをし、2日目の上塗に臨みました。上塗では、罎の使い勝手を良く考え、罎の口、丸座、猪の目の入った葉の部分、菊座、六葉の直の部分の順番に施行しました。私はプラ型やベニヤ型などを使って懸魚を仕上げた事がなく、先輩の職人さんには、下から見上げた時、メリハリをよく入れる箇所は入れ、出す箇所は出せと教わってきたので、全てをフリーにたよ

り、お手本をたよりに施行させてもらいました。一番困難だったのは、菊座の16弁です。形がとりにくく、うまく丸味がとれなかったのでメリハリが取れず、平たい薄っぺらい菊座になりました。蛇腹引きについて、私は洋風建築の蛇腹引きは経験があったので「とめが」大変なのは、知っていたのですが、予想以上に仕事がつるさく、型引き、角、切り付け、全てにおいて苦労しました。課題を通して、六葉ではメリハリを付ける事を念頭におき下絵を作成し、ある程度型にたよる事も重要だと学びました。研修生は、私が初級で出会ったことのない人ばかりだったので、年齢、経験年数、技量など全く知らず、自分にもかなりのプレッシャーがかかりました。施行中も皆さん真剣そのもので、2日目に型をプラ版で作ってくる人、スタイロンで引き型を作ってくる人など熱心な人がいま

した。なによりも皆さん中級者だと思っただのは、誰も愚痴をこぼさず前向きに、根気よく施行していました。皆さん、根性のあるベテラン職人だと思います。

(有)田代千治店

◆ 原 慶介

六葉製作は今回が初めてでした。下地があるのか？又どんな下地なのか？いる道具は？等、まったく分からず不安ばかりでした。いざ課題の下地、そして見本の六葉を見て、こんなのできるのか？と不安になりました。製作中は作業工程も分からず必死でした。定規等は前日に作っていました。まだまだ段取り不足でした。またヘルメットをかぶっての立っての作業は足腰が痛く大変でした。今回の中級実技研修は、六葉の製作しか記載がなく、要る道具等が分からない状態で、職人としてその場



での臨機応変さや対応力が問われる研修だったと思います。事前に、何があっても対応できるように準備する事の大切さを痛感しました。
(原左官工藝)



保存会と姫路市の共催事業として、体験会を開催しました。
平成28年9月25日、姫路城三の丸広場において、平壁塗りと屋根目地漆喰塗りを、保存会会員の指導により、希望者に体験をしていただきました。また道具や材料見本の展示も行いました。

姫路城漆喰塗り体験会



文化庁主催の「日本の技体験フェア」が、平成28年10月22・23日、群馬県前橋市「ヤマダグリーンドーム前橋」で開催されました。
本会は、活動状況のパネルや左官材料・道具などの展示を行うとともに、他の保存団体と協同して「壁掛けづくり」の体験会を行いました。

日本の技 体験フェア



講義 犬山市の伝統的建造物群

文化財壁技術の継承を図るため「左官（日本壁）伝承者養成研修会（普通講座）」を、8名の研修生で行いました。前期は平成28年8月29日～9月3日、愛知県江南市、名古屋市、富山県射水市で行いました。後期は10月31日から11月5日まで、高知県、香川県、姫路市で行いました。

左官（日本壁）伝承者養成
技術研修会（普通講座）



鰻絵実技



鰻絵実技



大津壁塗り実技



大津壁 材料準備



後期研修 講義 土佐漆喰



前期 研修生



土佐漆喰製造工場見学



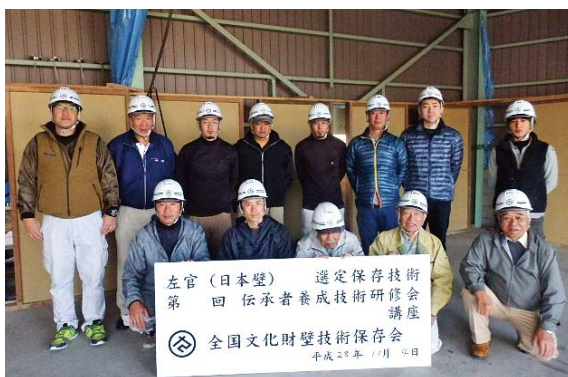
土佐漆喰塗り実技



実技



講義 文化財保護法他



後期 研修生と講師



大津磨き実技

前期研修では、実技に力が入っていました。大津壁では、普段の仕事でまったくかわる事のない材料で、とても苦勞をしました。灰土にしても、薄く塗る事はいくらかでも出来ますが、薄すぎても仕上りが乾きすぎて上手くゆかず、だからと言って厚く塗っても仕上りが上手くゆかず、その見極めが今回の実習を行って、そして経験を重ねる事により、上手く出来るようになると思います。これは今回の作業に限らず、全ての作業につながると思います。そして仕上がりに関しても、本来の土の色の出し方、そして磨くのか、磨かないのか様々な事を考え、学ぶ事がたくさんあると思います。竹内源造記念館で鏝絵を見て実技を行いました。竹内源



造さんの作品はものすごく立体的で迫力のある物でした。迫力を出すには、その対象の観察、想像、技術、根気などが大事だと思いました。私は鯉の鰻絵を作りましたが、自分の想像した物を形にする難しさを学びました。また立体にする為に昔は釘、ひも、はり金など、様々な物を用いて立体にする技法を学びました。そしてなにより絵心が大事だと思いました。この作業はかなり特殊を極めると思いますが、美意識と言う面では、壁を塗る、そして作業場をきれいにするなど、いろいろな所に通じる物だと思いました。

後期研修の高知では、石灰の生成から土佐漆喰の作り方まで学びました。石灰の作り方については本、等々で文章としては知っていましたが、本物の釜を見てその工程を見る事により、映像として認識し、より理解す

る事が出来ました。実技では土佐漆喰、大津磨きを行い、2つの仕上はとても大変で、まったく上手くいくものではありませんでした。普段さわる事の無い材料をさわる機会ができ、大変貴重な実技でした。

(吉村興業(株))

◆太田 勝之

前期研修では、犬山城下町の歴史を活かした町作りについて、講義して頂きました。犬山ならではの建造物の特徴や、尾張名所図解などから、歴史的背景があり、なおかつ地域の人達の地元を大切に想う気持ちが伝統的建造物群となったと思いました。次に、文化財の基本と愛知県の文化財について説明して頂きました。文化財保護法の移り変わりや、文化財の種類、有形・無形・民俗、記念物や文化的景観など、日本らしい景色

や、動植物も含まれている事を知りました。また愛知県での文化財の所有数、種類、時代別の特徴など、解り易い説明でした。大津壁の材料作りでは、研修生全員で準備をしました。

土、砂、石灰、苧、どれも地元材料とは違うので、調子が出てくるか不安でした。大津壁塗りでは、白、赤、黄、浅黄の引土から2日で全色施工しました。白大津と浅黄大津は初めてで、特に浅黄色は、言葉に表わせない和らかい風合で、美しい色の壁でした。灰土を塗り甘い鰻でこなしましたが、引土を塗り付けるタイミングが少し遅く、そこそこ色は揃いました。時間がたつにつれ小ヒビが入りました。水引きと、引土の厚みや材料の配合など、見極めなければと思いました。名古屋城と本丸御殿の見学では、壮大な敷地の中に天守がありました

が、RC造なのが少し残念でした。本丸御殿では、全て国産の新しい木材と漆喰が美しい室内は、豪華絢爛な空間でした。受講生の中には工事に参加している人もおり、羨ましく思いました。竹内源造記念館では、鰻絵の説明を受けました。以前より楽しみにしていた実物の双龍と磨きなまこ壁には、圧倒されました。近くの神社には、源蔵の父や小杉左官の作品もあり、どれも見事な鰻絵でした。鰻絵を石崎先生より指導して頂きました。図案を準備していたので、下書き、中盛りまでは、スムーズに進みました。当日に漆喰での作業が出来なかったのは、残念でした。

後期研修では、石灰岩から消石灰を作る土中窯や、藁、土佐漆喰の製造を見学しました。現存天守の一つである高知城見学では、昭和の修理時の壁が残し

てあり、その壁には塗り層が無く、凄い厚みを土佐漆喰で仕上げていました。北村石灰見学で「土佐漆喰は塗り重ねても材料が一体化する」と言う話を思い出しました。中脇先生の講義では、土佐漆喰の歴史、近年の移り変わりから、製造会社の苦難などを知りました。次に土佐漆喰磨きの実技をしました。近県である私は、普段からよく使います。しかし鏝の焼きや、旬、タイミングなど全く違い、戸惑いました。同じ材料でも仕上げに至る工程の違いに、奥の深さを感じました。また作業場にあった松本さんの土佐漆喰での彫刻造形は圧倒される存在感で、完成度の高さに見とれました。栗田商店での土佐漆喰工場見学では、藁を刎にする過程や、発酵さすプールがあつたり、大量生産できる規模の大きい会社でした。香川県では、四

国村と恵利家住宅の見学でした。どちらも土壁（荒壁）での仕上げが多く、荒壁特有の割れが無く、施工された石田さんの技術の高さを感じました。姫路城見学では、一般開放していない所から登城し、普段見る事のない角度からの大天守は素晴らしいかった。また、現在修理をしている櫓の現場も間近で見ることができ、大変貴重な見学でした。講義では昭和の大修理と平成の修理の比較や、修理しながらの活用など、新しい取組をしている事が分かりました。次に文化財建造物の指定や登録件数など、今後の文化庁の方針など教えて頂きました。実技では、黒赤大津磨きをしました。下塗りも2種類の施工方法で灰土を塗って引工を掛けるやり方と、灰土の前に土を一度塗る施工は、水引もゆっくりし、色が揃い易いと思いました。また引土

を塗る前に灰土を少し休ませるのも新しい発見でした。

（太田左官）

◆大田 雄介

前期研修では、主に大津壁や鏝絵などを体験させて頂きました。大津壁についてですが、材料の配合や作業手順などいろいろな事を教えて頂きました。今回、初めて体験させて頂いたのですが、この経験を現場に活かしたいと思います。鏝絵の見学では、竹内源造記念館にて作品を見学しました。どの作品も精巧にできていて、とても感動しました。そして実習では、立体的に見える土の盛り方など様々な事を教えて頂きました。この経験を踏まえて、個人的にまた鏝絵を製作したいなと思いました。

後期研修では、主に土佐漆喰や大津磨きなどを体験させてい

たきました。土佐漆喰についてですが、普通の漆喰とは違い糊を使っておらず、石灰原石に多量の岩塩を混入し（塩は粘り調整のため）窯で焼成した灰に、発酵した稲のわら刎と水を加え練りあわせ、3ヶ月以上放置し、熟成する事により糊不要の粘りを生じさせている特徴があります。そして実技では、材料の扱い方などいろいろな事を教えていただきました。大津磨きでは、材料の配合や作業手順など、様々な事を教えていただきました。今回、初めて体験させて頂いたのですが、この経験を踏まえて、今回より良い仕上がりになるように時間を見つけて練習したいと思います。今回の研修を通して、初めての体験ばかりでとても勉強になりました。この経験を今後に生かせるように、日々精進したいと思います。

（株山脇組）

◆ 加藤 正幸

前期研修の初めは、犬山・愛知県の伝統的建造物群及び文化財保護・活用について学びました。犬山市の住宅は、軒先長く格子が特徴と言う事でした。是非一度、ゆっくり見て歩きたいと思います。愛知県内も多数の文化財が残っており、活用方法として地域コミュニティ・体験学習・飲食店などで、保存と活用のバランスがなされている事を学びました。実技は大津壁でしました。材料作りでは普段攪拌機を使いますが、昔ながらの工法での刳解しや、棒による材料合せなどを体験しました。壁塗りでは、水引き具合が難しく仕上げも、とうてい美しい出来ではありませんでした。富山では、竹内源造記念館にて作品展示しである「双龍」は圧巻でした。七宝なまこも大変肉盛りがあ

り、素晴らしい物でした。今回実技鍔絵製作では、石崎先生には大変お世話になり鍔絵のポイントなどを教えていただきました。現場見学では、蔵の大きなクラックの継ぎ方などを惜しみなく教えていただきました。今回から鍔を持つての作業でしたが、経験不足を痛感し良い経験でした。

後期研修は、普段なかなか現場機会の少ない土佐漆喰製造及び石灰製造工場を見学しました。講義は、土佐漆喰の特徴を学びました。実技では、講義で特徴を聞いてからの実技でしたので、良く理解出来たと思います。姫路では、昭和と平成の犬守修理の比較が大変興味深い講義でした。実技での大津磨きでは、普段自分がしている工法と違い難しく、習得したい技法です。役員さん講師の皆さんには大変ご迷惑をおかけしたと思

いますが、良き仲間に出会えた事に感謝し頑張りたいと思います。(しゃかん かつう屋)

◆ 木谷 直充

前期研修は講義から始まりました。犬山市の伝統的建造物のすごさや、歴史を活かした町づくりなど、貴重な資料を頂きました。また、愛知県の文化財保護について説明頂きました。今流行のポケモンGOによる被害が多い等、現代ならではの被害があるという事も学びました。その他、文化財はどうゆう物か、文化財保護法はどうゆう法なのかなど、日常の作業の中では知る事の出来ないことを知ることができ、とても勉強させて頂きました。実技では材料作りから始め、研修生で協力して楽しくまた意見を出し合い、講師の皆さんにご指導頂き、材料作りが

できました。塗りの作業では、

自然の風を受け、水引きが早く大変でした。塗り作業は、皆初日の事があり対策ができ上手く仕上がったと思います。富山の研修では、鍔絵を学び体験させて頂きました。又、竹内源造の作品に圧倒されるばかりでした。いざ作業をするとかかなり難しく、どうすれば立体的になるのか頭を悩ませましたが、ご指導頂きながら楽しく作業をさせて頂きました。

後期研修は、まず高知県で石灰がどのようにして作られていくかを見学しました。石灰の素の石灰岩、焼くためのコークス、石灰、塩など現物を手に取り見せていただきました。また、土佐漆喰の製造も見学させて頂きました。僕たちが使わせてもらうまで、とても手間のかかる作業をしていたのだと、改めて分かりました。土佐漆喰についての講義では、

前日に工場を見学させてもらっていたこともあり良く分かり、新たな知識が増えました。さらに、土佐漆喰実技で磨きの実技を指導いただきました。ノロのかけるタイミングや鋺の動かし方など、細かく指導いただきました。また、土佐漆喰の製造工場を見学しました。店により藁が違ったり、独自の配合ややり方があり、材料自体も違うと実感しました。四国村見学では昔の民家作り、壁の仕上げを見て、改めて昔の人の技術のすごさを体感できたと思います。旧恵利家住宅の見学では、住宅もかなり大きく、すごい作りでした。その他展示物もすごく、昔の道具や瓦など普段目にする事がないような物ばかりで、楽しく見させて頂きました。姫路城では、現在修理中の現場を見学させていただいた後、城についての修理の歴史や経緯などを、

分かりやすく説明していただきました。その後、有形文化財・無形文化財がどのようなものかなど、文化財全般について、分かりやすく講義をしていただきました。最後は実技で、大津磨きを経験させていただきました。土佐でやる磨きとはまた違って、悩みながら講師の方々に教えていただき、また受講生皆で話しあい、楽しく学べたと思います。(株)しつくい浅原)

◆永井 貴見

前期研修は始めに講義を受けました。犬山市の伝統的建造物群について写真で細かく説明していただき、様々な種類の建物があり驚きました。次に愛知県文化財保護についての講義を受けました。文化財の中にも色々な種類に分かれており、鎌倉時代より古いのはなく、愛知県庁舎が文化財になっている事を

初めて知り、勉強になりました。大津壁の実技では、材料の練る手順から教えて頂きました。初めて大津壁を体験したので、あまり知識がなく色を合わせるのが苦労しました。名古屋城は初めての見学でしたが、中に描かれている絵を見て感動しました。階級によって、天井、床、絵がぜんぜん違うことを知りました。次に鋺絵建造物に行き、鋺でこんな立体的に作品ができるのかと思いました。また、細部まですごくこだわりのあり、繊細な作業で苦労したんだなと思いました。鋺絵の実技では、絵を立体的に見せるやり方がすごく難しく、感覚がわからないので苦労しました。でも楽しく考えながら出来たので良かったです。

後期研修では、まず石灰製造の見学に行き、石灰がどのような過程で作られているか知り勉強になりました。その後高知城を見学し、歴史を感じました。特に階段が急勾配だったのが驚きで、天守からの眺めは綺麗でした。次に、土佐漆喰についての講義を受けました。土佐漆喰の製法や内外部の仕上りや特徴を知りました。その後、実技では、水引きが思った以上に早く苦労しました。しかし、細かく指導して頂き勉強になりました。漆喰製造工場の見学では、一から製造過程を見ることができました。最後の袋詰めは手作業で、一つ一つ丁寧にやっておられ、手間がかかっていると思いました。民家博物館四国村とみるく自然公園では、文化財の建物がたくさんあり、昔の建物を多く見学できました。姫路城では、今やっている修理現場の状況を見ることができました。その後に、姫路城の歴史や平成と昭和の大修理の違いなどの講

義を受けました。そして、文化財保存修理事業と行政の講義を受けました。文化財のことについて、様々なことを学びました。大津磨きの実技をしました。材料から作り、硬さや粘さや配合を指導して頂きました。大津磨きは経験がなく試行錯誤しましたが、塗り方や磨き方がわかり勉強になりました。

(株式会社スルギ)

◆ 原 慶介

前期研修では、長谷川先生「犬山市の伝統的建造物群」、近藤先生「愛知県の文化財保護について」の講義を受けました。講義終了後に大津壁の材料作りをしました。実技では大津壁の実習、黄大津、浅黄大津の並み仕上げを行いました。水引きを調整して色をそろえるのが難しかったです。名古屋城本丸御殿の見学では、スケールの大

きさ装飾の豪華さに圧倒されました。竹内源造記念館では、双龍の鍔絵の迫力に圧倒され、物凄い精度で施工された漆喰磨きのなまこ壁に見とれました。また、天香の鍔絵の繊細な鍔使い、リアルな色使いに刺激を受けました。鍔絵の実技では、竹内源造氏の盛り上がった鍔絵の技法を石崎先生に教えて頂きました。今まで鍔絵をする時は、砂漆喰で盛り上げていきましたが、源造や石崎先生の技法だからかなり盛り上げる事ができ、迫力のある鍔絵ができると思いました。引き続き鍔絵の実技を行いました。最後に石崎先生が現在修復されている千光寺を見学。土蔵の鍔絵の実物を近くで見ることができ、とても良かったです。又鍔絵の修復方法や土蔵の修復方法等、実際の現場での対処の仕方が聞けて大変勉強になりました。

後期研修では、北村石灰工場のレトロな雰囲気や衝撃を受けました。生産能力は多くはなさそうでしたが、こだわりや思いが伝わってきて、使ってみたいと思いました。土佐漆喰の実技では、糊が入っていない為、漆喰とは作業方法が違うので難しかったです。また作業場にあった龍の鍔絵の迫力、精度に圧倒されました。私も練習を重ねてああいう鍔絵が出来るようになりたいと思いました。栗田商店の工場は機械化が進んでいましたが、最後の袋詰め作業や要所所は手作業が必要で、大変そうでした。今回2軒の漆喰製造工場を見学しましたが、どちらの工場も人手が少なく活気がなかったと思います。私達左官も人手不足ですが、漆喰の良さをもっとアピールし現場で少しでも多く漆喰を塗っていきたいと思います。姫路城の修理現場

◆ 森田 真伍

では、工事もだいたい進んでいて、屋根漆喰の作業工程や作業風景も見ることができ勉強になりました。実技では、黒大津の時は引土を塗るタイミングが少し遅かった様な気がしました。2日目の赤大津は前日に黒大津の実技をしている事もあって、上手く仕上がりました。

(原左官工芸)

前期研修は、まず「犬山城下町を守る会」の長谷川先生と、愛知県の文化財保護室の近藤先生の講義でした。まず思ったのが、日本にはたくさん文化財があるという事です。主に、重要文化財で見ると建造物は全体の約2割なんだということもよく分かりました。また犬山も含め、愛知県全体の文化財がどのように次の世代に残していくのが大事である。知ってもら

い、実際に観て活用していくことが価値を生むと感じました。

次に大津壁の実技ですが、前日に材料の仕込みをし、いざ塗っていくのですが、初めて大津壁というのを体験するので、講師の人達や実習生の仲間に教えてもらいながらやっていました。なんとか形にはなりましたが、それまでの過程が良くなく、鏝の選びや運び方など、しっかりといかない所が多々あったので改善したいです。名古屋城本丸御殿を見学した後、鏝絵で有名な竹内源造記念館へ行きました。ここでは、巨大な鏝絵「双龍」をはじめ様々な作品を見る事が出来、まさに漆喰彫刻です。そして、実習生皆で鏝絵の作成に入ったのですが、これも初めての経験なので難しくもあり面白くもありました。どうしても平面になってしまうので、浮いているかのように、より立体的に

していくところが上手な人との差なのだろうと思いました。

後期研修は、まず北村石灰製造工場へ行きました。石灰石を釜で焼くところから、最後の袋詰め所まで一通り見せていただきました。石灰石を焼く時の塩の加減や、苳を発酵させてどのように練り上げていくのか話されました。本当に大変な過程を経て土佐漆喰というものが製造されているんだなあ、と感じました。土佐漆喰の講義では、より幅広く分かりやすく説明をしていただきました。また中脇先生のホームページで動画を見た事がありますが、とても詳しく解説されていて、実際に会えて良かったです。次に土佐漆喰の実技でしたが、塗るのが初めてでした。材料には、糊が入っていないため塗った感触としては、すぐ乾くし塗りづらかったです。最後の仕上げで何度も鏝を

通しましたが、一部だけ光っただけで上手にはいきませんでした。でも良い経験でした。漆喰製造見学のため栗田商店、民家博物館四国村、みろく自然公園見学をしました。姫路城見学で、現在保存修理をやっている現場を見学させてもらいました。講義では、姫路城の保存修理のことをより詳しく聞くことができました。山脇さんの所で、大津磨きの実技でした。前回のこともあるので少しは慣れると思っていましたたが、今回は戻し作業があったため、水引の具合が分からずとても苦労しました。仕上げの時、ちゃんとした鏝を持ってなかったので、先生や研修生に立派な仕上げ鏝を貸してもらいました。使ったらとても綺麗に仕上がったので、良い鏝は自分の腕を助けてくれるんだと学びました。

(中島左官(株))

編集だより

会報の発行にあたり、原稿を執筆いただきました皆様方に御礼申し上げます。

表紙には「伝承者養成技術研修会」の中級研修で、実技試験の課題でした六葉を掲載いたしました。いずれも研修生の力作で、素晴らしい作品に仕上がっていると思います。また研修生の皆様からは、率直で詳細な感想を寄せていただきました。会長、副会長からのメッセージなど、多様な思いや情報も寄せていただきました。

事務局担当の杉本様にはデータ提供・校正等、ご尽力を頂きました。改めまして御礼申し上げます。

(編集 保存会顧問 上田耕三、事務局 中嶋正雄)



会 員 名 簿

	会 員 名	住 所	事業所名等
正 会 員	佐 藤 治 男	京都市左京区下鴨南茶ノ木町23-4	左 官 業 佐 藤
	安 達 保 信	京都市下京区花屋町通り間の町西入る天神町411-2	(有) 安 達 左 官 店
	中 嶋 正 雄	愛知県江南市力長町大当寺128	中 嶋 左 官 (株)
	田 代 益 市	京都市下京区猪熊通り塩小路下る上夷町165	(有) 田 代 千 治 店
	石 田 均	香川県さぬき市大川町富田中2147	石 田 左 官 工 業
	小 林 錦四郎	和歌山県有田郡湯浅町湯浅2132-17	小 林 左 官 店
	津 田 誠 一	滋賀県大津市下阪本1丁目20-22	(有) 津田左官工業所
	山 脇 一 夫	兵庫県姫路市飯田1-24	(株) 山 脇 組
	浅 原 雄 三	京都市山科区大宅沢町185	(株) しっくい浅原
	片 田 儀 斎	京都市上京区西洞院通中立売下る菊屋町256	片田儀斎営業所
	本 田 俊 之	大阪府寝屋川市高柳2丁目43-13	本田左官工業所
	松 本 勉	高知県安芸市井ノ口乙 1202-3	(有) 左 官 松 本 組
	阿 嶋 一 浩	東京都葛飾区青戸8丁目19-11	(株) あじま左官工芸
	小 迫 傳	鹿児島県出水郡長島町蔵之元3246の1	小 迫 左 官
	小 林 常 司	京都市中京区東洞院蛸薬師下る元竹田町639-11	左 司
準 会 員	足 立 三喜男	兵庫県三木市緑が丘町東1-3-4	足 立 組
	石 動 信 明	石川県金沢市神田1丁目31番1号	(株) イ ス ル ギ
	桑 路 丸 幸	兵庫県神崎郡市川町沢115-2	桑 路 建 塗 (株)
	木 津 恵 雄	京都市東山区古門前通り大和大路東入る二丁目三吉町344	木 津 工 業 所
	加 藤 正 幸	三重県伊賀市東高倉2380-11	しゃかん かとう屋
	太 田 勝 之	香川県三豊市豊中町笠田笠岡3156-3	太 田 左 官
	原 健 一	和歌山県和歌山市湊御殿2丁目6	原 左 官 工 藝
	吉 村 誠	東京都中野区上鷲宮4丁目10番6号	吉 村 興 業 (株)
	原 田 正 一	山形県山形市大字中野423-1	原田左官工業所
	川 越 一 弘	熊本県熊本市東区戸島町920番地6	(株) カ ワ ゴ 工
賛 助 会 員	宮 谷 邦 夫	兵庫県三木市別所町朝日ヶ丘35番地の69	宮 谷 製 作 所
	村 檉 太 郎	栃木県佐野市宮下町1番10号	村檉石灰工業(株)
	北 野 一 成	大阪府堺市中区深井北町104-2	(株) 北 正 商 店
	吉 田 厚 子	千葉県いすみ市岩船196	(株) 吉田鉄五郎商店
	濱 橋 秀 三	京都市伏見区深草大亀谷大山町77	(株) 浜 橋 組 建 材
	尾 崎 良 弘	京都市伏見区深草大亀谷西久宝寺町7	尾崎色土製造所